

新ごみつつうしん 南魚沼 No.2

【問合せ】新ごみ処理施設整備室 ☎782-0263

新ごみつつうしん南魚沼No.1（市報9月1日号に掲載）では、現施設の老朽化による新たなごみ処理施設整備の必要性と、広域化により南魚沼市、魚沼市、湯沢町の2市1町で共同整備することになった経過などを紹介しました。今回は、新たなごみ処理施設の整備に向けて検討していることや、施設から発生するエネルギーの活用などについて紹介します。

新ごみ処理施設の整備に向けた検討

現在、新たなごみ処理施設の整備に向けて、今後の人口減少やごみ量の推移、経済性などを踏まえて、施設の場所や規模、燃焼方式、施設から発生するエネルギーの利用方法など、さまざまな検討を行っています。

建設地

新ごみ処理施設では、南魚沼市、魚沼市、湯沢町の2市1町の広範囲のごみを収集して処理することになります。そのため、ごみの運搬距離などに極端な偏りが出ないように、建設地は2市1町の中心エリアを選定したいと考えています。交通量の増加なども含めた周辺環境への影響を最小限に抑えるため「安全安心で、環境に十分配慮した施設」をめざしています。また、できるだけ災害などの発生時にも影響を受けにくい場所を検討しています。

施設の規模と面積

広域化に伴い、可燃ごみの処理能力は現在の環境衛生センター〔島新田〕の約1.3倍の規模が必要になると想定されます。これは、施設を24時間運転する場合の規模ですが、熱エネルギー活用の方角性によっては運転時間が変わる可能性もあります。その場合、さらに規模が大きくなる半面、運転経費を抑えることができることなどから、複合的な検討が必要です。また、可燃ごみの処理施設と不燃ごみの処理施設を同じ施設内に整備することを検討しており、施設の面積は全体で約3ヘクタール（3万㎡）が必要になると考えています。

燃焼方式

可燃ごみ処理施設の燃焼方式は、「ストーカ方式」と呼ばれる燃焼方式を検討しています。これは近年、全国で建設されるごみ処理施設の8割以上が採用している燃焼方式で、構造がシンプルであるため、建設費や維持管理費が他の方式と比べて安く、安定した燃焼が特徴です。また、ストーカ方式は熱効率が高いため、補助燃料として灯油やガスなどの化石燃料を使用する必要がなく、環境にも優しい方式です。

博士、新しいごみ処理施設整備に向けて、どんなことが考えられているの？



この他にも、広域的な分別方法の統一やリサイクルなどのさらなる資源化の推進、ごみの減量、多発する自然災害への対応など、新たな施設を整備する機会に、検討することはたくさんあるんじゃないよ。

